

# 「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里第一小学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

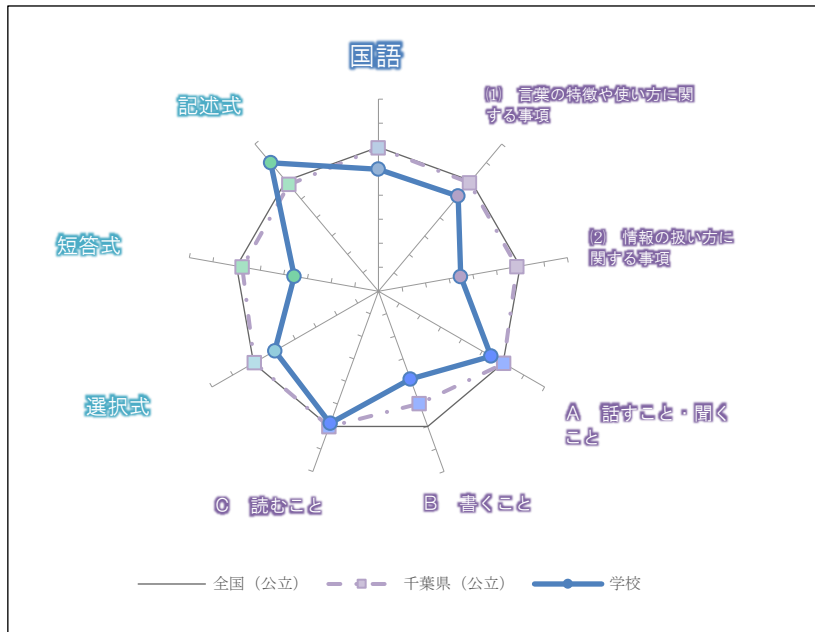
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



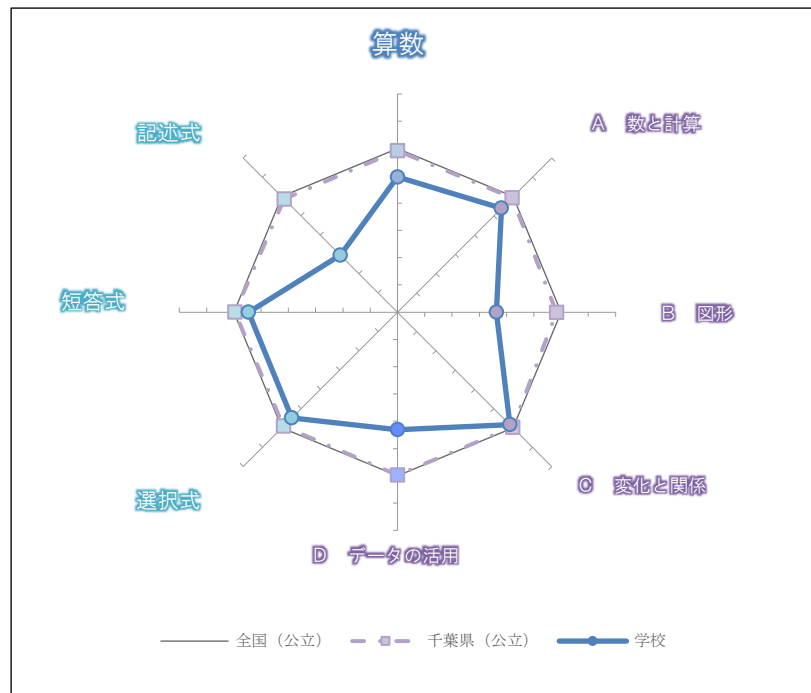
#### 【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、下回っています。
- 記述式の問題全体の正答率が全国平均を上回っています。多くの児童が文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができている。
- 選択式の問題全体の正答率が全国平均を下回っていますが、送り仮名に注意して漢字の文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題は全員が正答することができました。
- 「情報の扱い方に関する事項」の領域では、全国平均と比較して、大幅に下回っています。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題があります。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域すべてが、全国平均を下回っています。特に、「書くこと」の領域は大幅に下回っています。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
- 短答式の問題は、全国平均と大幅に下回っています。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書くことに課題があります。
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題は、比較的よくできていました。

#### 【改善方策等】

- ドリルタイムを実施し、基礎基本の確実な定着を図ります。
- 「書くこと」については、課題に対して筋道を立て論理的に考える活動、自分の考えを順序立てて文章構成する活動、そして自分の考えを適切な言葉を使って表現する活動などを、様々な教科、場面において積極的に取り入れることで、文章表現力の向上を図っていきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、目的に応じて話し合ったり、話し手の意図を理解したりする指導を取り入れていきます。
- 「読むこと」については、図書、新聞をはじめとする様々な文章を読んだり、活用したりする機会を増やし、向上を図ります。
- 短答式の問題においては、丁寧に漢字学習を進めるとともに、適切な漢字の使い方を理解する活動を取り入れるなど、確実な定着を図っていきます。

## 算 数



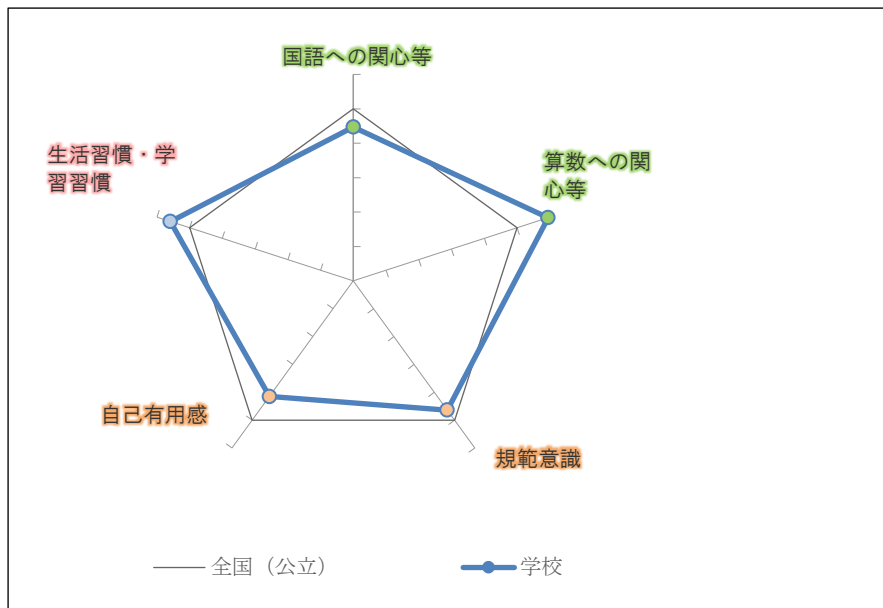
### 【特徴と現状】

- 全体の結果は、全国平均と比較して、下回っています。
- 「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域すべてが、全国平均を下回っています。特に「図形」の領域は、全国平均を大幅に下回っています。
- 選択式、短答式、記述式の問題すべてが、全国平均を下回っています。特に、記述式の問題は、大幅に下回っています。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係ではないこと説明する問題は、比較的よくできていました。
- 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする問題は、比較的よくできていました。
- 正方形の意味や性質について理解することに課題があります。
- 棒グラフを正しく読み、見いだした違いを言葉と数で説明することに課題があります。

### 【改善方策等】

- ドリルタイムを実施し、基礎基本の確実な定着を図ります。
- 問われていることが何かを適切に判断するために必要な読む力を向上させるため、国語科の学習とあわせて、文章を読んで要点を正しく読み取る活動を行います。
- 図形や数量を日常生活と関連づけて解釈するような活動を意図的に取り入れます。
- 記述問題の課題を克服するため、日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させます。
- グラフや他の資料の読み取りについて、社会科の学習と併せて読み取る力、活用する力の指導の充実を図ります。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 「算数への関心等」「生活習慣・学習習慣」の項目は、全国平均と比較して上回っています。
- 「国語への関心等」「規範意識」「自己有用感」の項目は、全国平均と比較して下回っています。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」という設問に対して、肯定的な回答をした児童ほど平均正答率が高いことが分かりました。
- 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に対して、肯定的な回答をした児童ほど平均正答率が高いことが分かりました。
- 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」という設問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が、全国平均と比較して多かったです。
- 「自分にはよいところがありますか」という設問に対して、否定的な回答をする児童の割合が、全国平均と比較して多かったです。
- 「国語の勉強は好きですか」という設問に対して、否定的な回答をする児童の割合が、全国平均と比較して多かったです。

### 3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められています。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「思考力・表現力」の向上に努めてまいります。さらに、目的に応じて話し合ったり、文章を書いたりする活動も充実するよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。そして、学習内容の定着を図るために、家庭学習の工夫・改善を図っていきます。

本校では昨年度から学力向上委員会を中心に、様々な取り組みを推進し、学力の向上を図っています。また、富一スタンダードを作成し、学習面、生活面ともに、学校全体で共通理解を図り、改善

を重ねています。

児童の成長は学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。